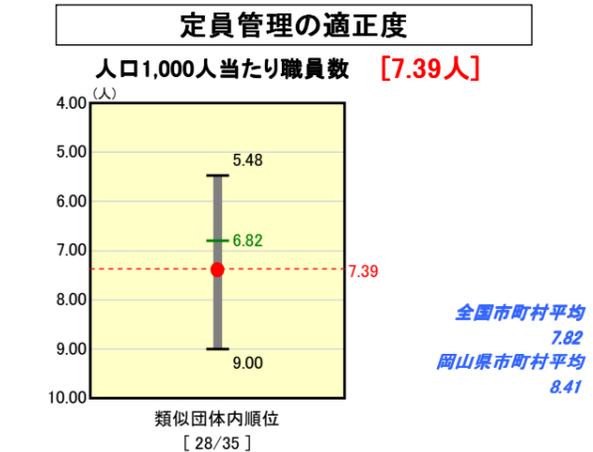
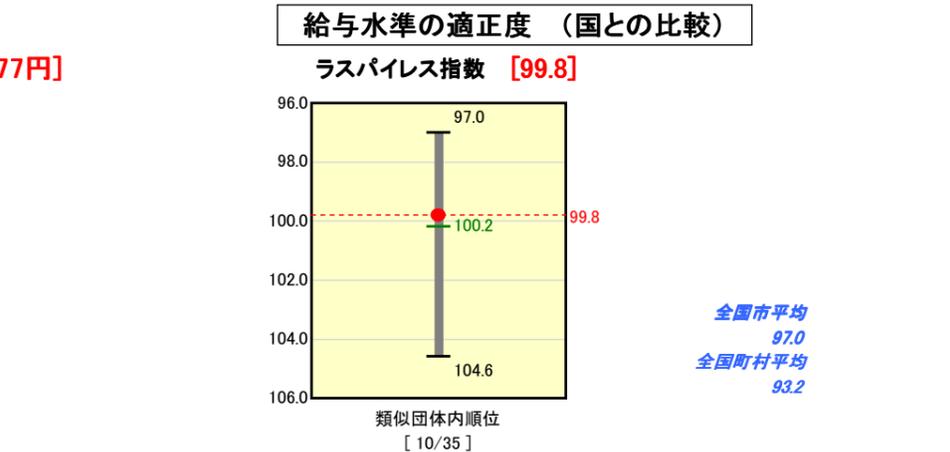
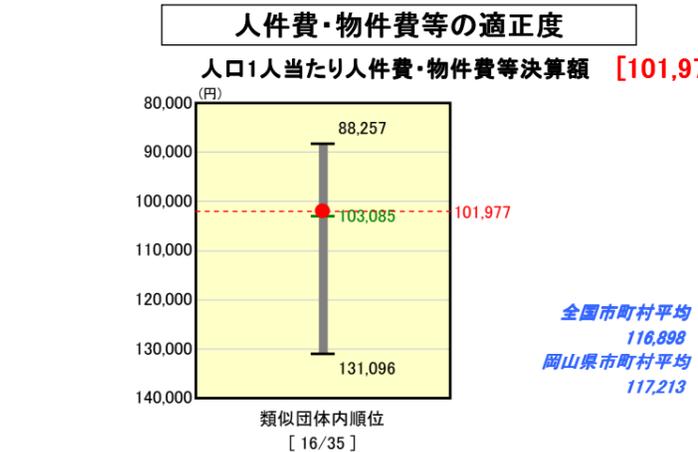
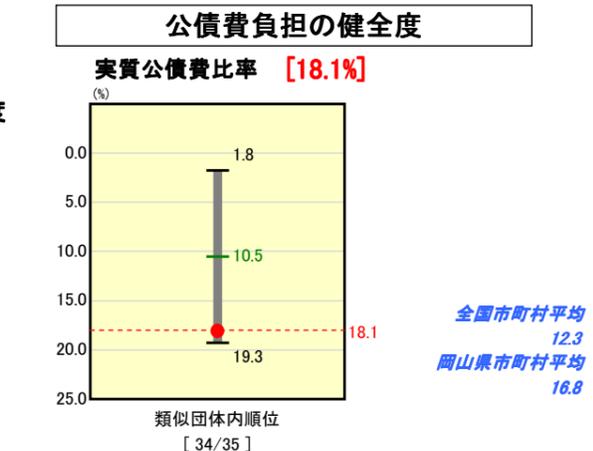
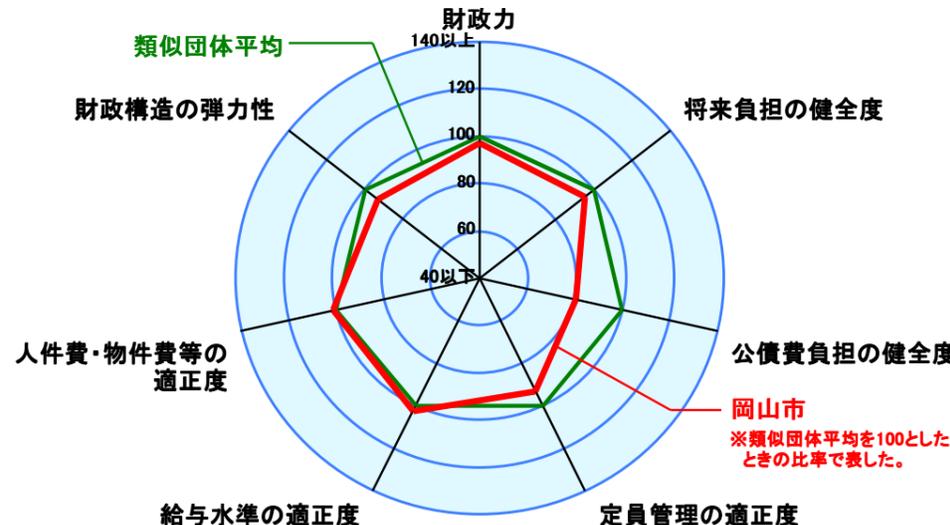
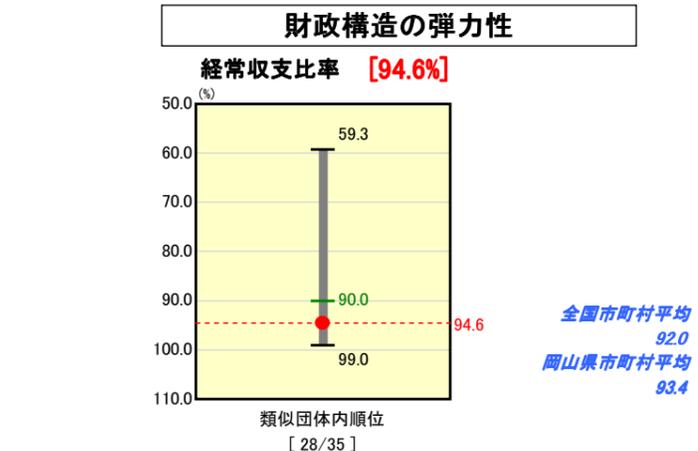
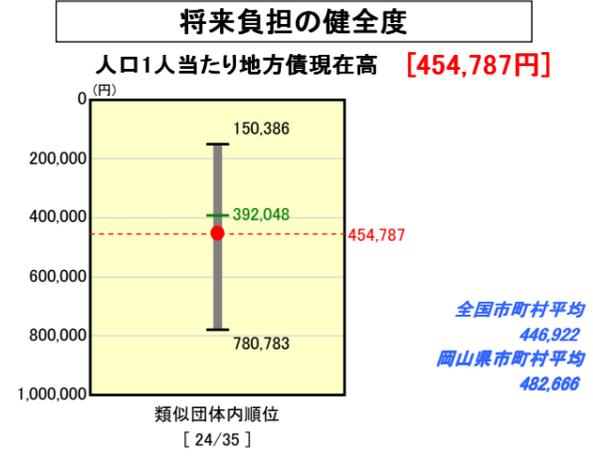
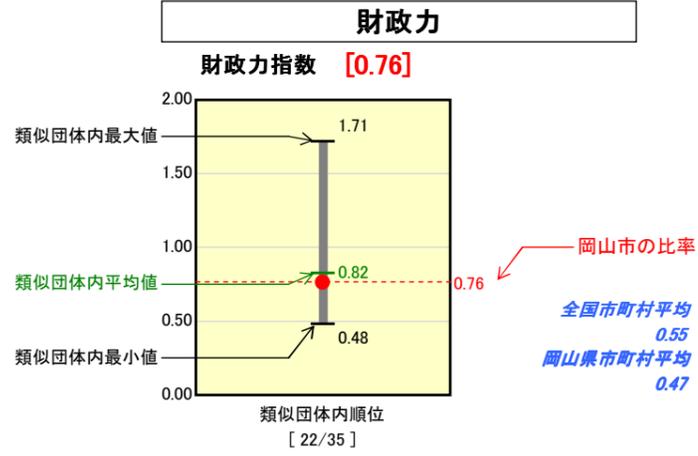


# 市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

## 岡山県 岡山市

人口	685,564	人(H20.3.31現在)
面積	789.91	km <sup>2</sup>
歳入総額	231,664,295	千円
歳出総額	227,237,619	千円
実質収支	3,441,582	千円



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

### 分析欄

**財政力指数:** 近年、微増傾向(17年度0.72、18年度0.74)にあり、0.76となっていますが、類似団体平均を若干下回っています。企業誘致、産業振興、都市基盤整備による人口、産業、交通の集積を図る等により、引き続き市税収入等の増収に努めます。

**経常収支比率:** 定年退職者の一時的な増加や公営企業会計に対する繰出金の取扱い変更により、比率は前年度より悪化しています(対前年度比2.2%ポイント上昇)。「新行財政改革大綱(短期計画編)」に基づき、行政サービス棚卸し(事業仕分け)及び人件費の縮減など、積極的な行財政改革に取り組み、歳出の徹底的な見直しを行います。

**人口1人当たり人件費・物件費等決算額:** 物件費や維持補修費などの経常的経費について、毎年見直しを図り、経費の削減に努めてきた結果、類似団体平均とほぼ同一水準を維持しています。今後も職員数の削減による人件費の縮減や、指定管理者制度の導入、指定管理料の見直しなどの委託料等のコスト引き下げに努めます。

**ラスパイレス指数:** 年功序列的な給与上昇の抑制や職務・職責に応じた給与構造の転換を図った結果、類似団体平均を下回っていますが、引き続き個々の職員の職務遂行能力や勤務実績を的確に把握し、それらを反映した昇給制度について、その運用の適正化を図っていきます。

**人口1人当たり地方債現在高:** 類似団体平均を約6万円上回っています。平成8年度をピークに地方債の借入額を抑制しており、12年度以降は人口一人当たり地方債現在高(臨時財政対策債、減税補てん債等の交付税全額算入分を除く)も年々減少しています。また、14年度以降は交付税全額算入分を除いた地方債借入額と償還額の差し引きもマイナスを維持しており、19年度決算の差引額は△119億円となっています。今後も元金返済額は高水準で推移すると見込まれますが、通常分の借入額を抑制することにより、地方債現在高の削減を図ります。

**実質公債費比率:** 都市計画税充当などの算定方法の変更により、前年度から大幅に改善していますが(対前年度比5.0%ポイント低下)、類似団体内では最低レベルとなっています。建設事業の重点化や進捗調整により、地方債借入額を抑制し、また、公的資金の補償金免除繰上償還を実施し、公債費の軽減を図り、実質公債費比率の改善に努めます。

**人口1,000人当たり職員数:** 配置基準が法令等で定められている専門職種(保育士、消防士等)以外の採用を、平成19年度から原則3年間凍結する等、「新岡山市行財政改革大綱(短期計画編)」に基づく、職員定数の適正化を着実に推進します。17年度と比較して22年度までに10%(約645人)の職員数削減を図ります。  
※人口は、平成20年3月31日現在の住民基本台帳人口です。